

2024年12月4日

(市町村宛)

京都府保険医協会
理事長 鈴木 卓

带状疱疹ワクチン接種費用の助成・拡充を求める要望書

日ごろより貴職のご尽力に敬意を表します。

さて、带状疱疹は特に50代以上が罹患しやすい疾病であり、加齢や疲労、ストレスによる免疫力の低下で80歳までには3人に1人が発症すると言われています。痛みが徐々に増していき、日常生活や就労が制限されたり、夜も眠れなくなることもあります。

また、20%の患者が带状疱疹後神経痛を併発し、長ければ数年以上疼痛に苦しむことになります。頭部や顔面に带状疱疹が出た場合、視力低下や失明、顔面神経麻痺などの重い後遺症が残る可能性もあります。

带状疱疹を防ぐにはワクチン接種が有効とされていますが、現在带状疱疹のワクチンは任意接種です。接種から9年後の時点でも有効性があるとされる不活化ワクチンは計2回で数万円と高額であり、接種を断念する人も少なくありません。経済的な理由からワクチン接種を諦め、病気に罹患することは医療者として看過できません。

国は2025年度よりB類定期接種の予定で準備を進めていますが、B類定期接種は、接種対象者のうち低所得者の接種費用を国が負担するもので、接種対象者でない方はもちろん、接種対象者であっても低所得者以外については、自治体が独自に助成をしなければ全額被接種者負担になってしまいます。行政として、ワクチン接種で病気を防ぎ、苦しむ市民が生じないような施策を要望します。

全国では現在700を超える市区町村が助成を行っており、府内では今年度から福知山市と向日市で助成制度が創設されました。福知山市の助成は、50歳以上を対象に生ワクチン4,000円上限×1回、不活化ワクチン10,000円上限×2回というものです。

については、下記の実現を要望いたします。

記

一、一定年齢以上の带状疱疹ワクチンの接種希望者に対し、接種費用の助成・拡充を求めます。

以上